



高原の風だより

2015 (平成27) 年9月 発行 <第2号>

がんばれ!

大相撲名古屋場所、上松町出身の御嶽海は、初土俵から三場所目で新十両に昇進し、11勝4敗で見事に十両優勝を決めた。

場所が始まる前、十両は幕下と違って取り組みの日数も15日間に増え、対戦する力士の体格も大きく上回るなどから、果たしてどのくらいの勝ち星を積み上げることができるか少し心配していた。ところが、いざ始まると御嶽海は持ち味の押し相撲がさえ、あれよあれよと勝ち進んだ。

私も7日目に友人3人と出掛け、御嶽海の文字と顔のイラストを描いた手製のうちわを振って応援した。母校の東洋大学から贈られた鉄紺色の化粧まわしを付けて土俵入りを行った御嶽海はとても頼もしく輝いて見えた。何か関取としての風格さえ漂わせているように感じた。御嶽海は、この日も危なげない相撲で勝利。翌日には難なく勝ち越しを決めた。

その後、9日目に初黒星を喫し10日目の相撲では相手の張り手で唇を切り流血した。思わぬアクシデントに見舞われたこともあり、得意の押し相撲を最後まで貫き通すことはできなかったが、見事な十両優勝だった。当日は、新聞の号外も配られ出身地の上松町だけでなく御嶽海が中学、高校と活躍した木曾町など各地で喜びの輪が広がった。

私も御嶽海のお父さんの実家が我が家の隣だということもあり、より応援に力が入る。西十両十二枚目から五枚目に番付を上げて臨む9月場所がとても美しい御嶽海の仕切りがもうすぐ始まる。これからもケガには十分注意をして持ち前の突き押し相撲に磨きをかけ、新入幕を目指して精進して欲しいと願っている。



御嶽海関!



出番を待つ御嶽海(左は元関脇寺尾の鍬山親方)



大道を得意の押しで攻める御嶽海(左)

プロフィール

- ▲本名：大道 久司 (おおみち ひさし)
- ▲1992 (平成4) 年12月25日生まれ (22歳)
- ▲木曾郡上松町出身
- ▲身長：179 cm ▲体重：140kg
- ▲愛称：ヒー君
- ▲得意は突き、押し。6歳(小学1年)から相撲を始め、福島中学、木曾青峰高校、東洋大の相撲部で活躍。2014 (平26) 年にはアマチュア、学生両横綱。15 (平27) 年2月出羽海部屋へ入門。同年3月場所に初土俵。幕下付け出しデビューから所要2場所で十両昇進。名古屋場所11勝4敗で十両優勝。
- ▲好きな食べ物：寿司 嫌いな食べ物は、なし
- ▲趣味：バドミントン
- ▲好きな言葉：「実るほど頭を垂れる稲穂かな」

参 加 者 の 声

再発見と創造で地元に資源を

がったぼ会 会長 稲垣 康 (木曾町開田高原)



2日目の分科会では資源をキーワードにしたものに参加しました。その中で、思い込みや妄想（アイデア）を資源にすることも必要、との意見はとても新鮮でした。

蘭越町では、長年温泉を掘当てようとした人の事業を町が引き継いだという説明を聞きました。私は「開田高原は山野草などの貴重な動植物が多く、地元の人には当たり前になっているものでも、1ターン者にとっては大変珍しいものも多くあり、彼らの声でその良さや大切さを再認識させられている」という意見を述べました。

「再発見と創造」で地元に資源を作り出すことが、これから必要だと思いました。全国各地から参加している多くの人と交流し、話を聞き、そして酒を飲みながら雑談の中からアイデアを膨らませることができる、このまちづくり交流会はとても素晴らしく、貴重な場だと強く感じました。

仲間の素晴らしさ痛感

開田高原倶楽部 会長 坂口 和芳 (木曾町開田高原)



今年の会場は「北海道蘭越町」。北海道新千歳空港に降り立つと1年振りに全国の仲間たちに出会い、3日間の交流会に胸が膨らみました。

私が今回一番強く印象に残ったのは2日目午後からの分科会でした。私は蘭越パームホールという音楽を演奏・聞く場所で行われた「文化」という分科会に参加しました。ここのオーナーが金子一憲さんという方で「このホールを建設するにあたっては、様々な偶然と多くの仲間の存在があって今に至っている」と笑顔で語ってくれました。一人では成し遂げられない事でも、多くの仲間がいればこんな素晴らしい場所を造れることに感銘しました。私もこの気持ちを大事にして、これからも全国の多くの仲間に感謝し、さらに仲間を増やす努力をしていきたいと思っています。

二人の講演に感動

開田高原倶楽部 下條 春彦 (木曾町新開)



「全国まちづくり交流会」、昨年に引き続き参加しました！今大会において二つの心に残る講演を聴かせていただきました。一人は、青森県大鰐町の相馬康穂さん。財政が破綻寸前の町を救った中心人物です。特に子供たちへの「ふるさと教育」活動では、「町に希望を失いつつある子供たちが、再び故郷への誇りと希望を取り戻し、そんな子供たちを見た大人たちも意識が変わり、結果大鰐町が再生した」というものでした。

もう一人は高知県馬路村農協組合長の東谷望史さん。「ゆず」を武器に馬路村を有名にさせた仕掛け人で、現在も先頭に立って馬路村のゆず産業（文化）を牽引しています。ゆずを売りながら馬路村を売り出し「あの村に行ったら元気になれる」そんな馬路村ファンを全国に作っております。身体の奥底から熱いものが湧き出てくるようなお二人の素晴らしい講演でした。

全国の皆から元気と刺激いただく

堀内 かすみ (王滝村)



今回はじめて全国まちづくり交流会に参加しました。「目指せ！日本の田舎町再生のお手本づくり!!」をテーマにした「プロジェクトおおわに事業協同組合」の相馬さんの講演。地域交流センターを指定管理料0円で受託したことにも驚きましたが、地震災害の影響を除き黒字経営が続いていることは更なる驚きでした。

経営理念のひとつである「サービス」ではなく「ホスピタリティ」世界一への挑戦は、業種は違うけれど、私も心がけていきたいと思っています。

蘭越米やジンギスカン、ホタテ、生ビール etc.そして何より全国で頑張っている皆さまからたくさんの元気と刺激を頂戴しました。機会を与えてくださった開田高原倶楽部の皆さまに感謝申し上げます。

はりきりご長寿列伝

杉下 綾子さん (84歳・木曾町福島) ②

NHKテレビのイブニング信州の中で放送している「はりきりご長寿列伝」で5月29日、木曾町福島の杉下綾子さん(84歳)を紹介させていただきました。

子どもたちの心豊かな成長願う

杉下さんは、自宅でピアノ教室を開いています。かつて携わった幼児教育の現場での経験を活かして始め、すでに50年余りが経ちました。通う生徒は幼児から年配者まで幅広く、親子二代での生徒も少なくありません。生徒数は以前に比べるとかなり少なくなったといいますが、今でも50人余りが学んでいます。ちなみに我が家でも女房をはじめ長女、長男、二男など私以外は全員がお世話になりました。



杉下綾子さん

「子どもの成長が1週間ごとに変わっていくのがなんとも言えない楽しみです」という杉下さん。毎年、春には練習の成果を確かめる杉下ピアノ

教室演奏発表会を開いています。演奏する曲は生徒の希望を聞きながら決め、本番目指して練習にも一層熱が入ります。この発表会も今年で48回を数えました。「長く続けて来られたのも主人や皆さんの温かい支えがあったからです」と感謝の気持ちでいっぱいです。

杉下さんはピアノの先生だけではなく、水泳の先生としても活躍しています。週に3回ほど町民プールへ行き、子どもたちに水泳の楽しさを教えています。また、週に1回は塩尻のプールへ通い、自身が指導方法などを学んでいます。

最初は水を怖がる子どもたちも杉下さんが一人ひとりと向き合っ



プールで指導する杉下さん

て教えることで、見る見るうちに水になじんでいくようになりました。「なんで1週間でこんなに変化があるの? 子どもの能力ってすごいな」と感じています。

「ピアノも水泳もつぼみが膨らんで、花が開いていくような状態がすごく楽しみです」という杉下さん。子どもたちの心豊かな成長を願いながらピアノに、水泳に情熱を注いでいます。

モンゴルの歌で地域を元気に!

～歌と踊りと馬頭琴のコンサート～



「活動は楽しく!」をモットーに地域づくり活動を行っている開田森林のクラブ(がったぼ会)では9月6日、開田小学校体育館でモンゴルの歌と踊りと馬頭琴のコンサートを開催しました。(写真)

当日は内モンゴル出身のテノール歌手・ポウジンゾンさんをはじめ舞踏家、馬頭琴奏者など関係者10人が来町し、モンゴルの伝統的な音楽を披露。

公民館の文化祭と一緒に実施した会場には郡内外から100人余りが訪れ、草原に響き渡るような歌声や激しいリズムに乗った踊り、馬頭琴の優しく染み渡るような音色を楽しみました。

モンゴルの民話『スーホの白い馬』の語りと演奏も行われ、最後には全員で踊ったり、馬頭琴に実際に触って演奏体験をしたりしました。友人と2人で初めて開田高原を訪れた安曇野市の寺澤美晴さんは「モンゴルの音楽に触れ、とても楽しい時間を過ごさせていただきました」と満足そうに話してくれました。



編集・発行者：大目 富美雄 (おおめ ふみお)

〒397-0301 長野県木曾郡木曾町開田高原末川 5190 番地

電話& FAX 0264-42-3661

携帯 090-2526-7156

E-mail info@ome-fumio.com